



建築技術性能証明書

技術名称：RES-P 工法

—小規模建築物の基礎に用いる細径鋼管による地盤補強工法—（改定8）

申込者：大成建設株式会社 代表取締役社長 村田 誉之
東京都新宿区西新宿一丁目25番1号
株式会社設計室ソイル 代表取締役 真島 正人
東京都中央区日本橋3-3-12 E-1ビル4F

技術概要：本技術は、小規模建築物を対象として、地盤の支持力増加と基礎の沈下低減を図るために、地盤中に細径の鋼管を所定の間隔で鉛直に回転圧入し、その上部に直接基礎（布基礎またはべた基礎）を構築する地盤補強工法である。

開発趣旨：本技術は、施工性やコストの問題で採用できる基礎工法の制約が大きい小規模建築物を対象として、杭状に打設した細径鋼管と直接基礎の鉛直支持能力を累加することで所要の鉛直支持力を確保する地盤補強工法である。開発にあたっては、いわゆる“足場パイプ”として広く流通している細径の一般構造用炭素鋼鋼管を採用することでコスト低減を図るとともに小型機械での回転圧入を可能とし、施工性の向上を図ろうとしている。

当法人の建築技術認証・証明事業 業務規程に基づき、上記の性能証明対象技術の性能について、下記の通り証明する。なお、本証明の有効期間は、平成31年9月末日までとする。

平成28年9月7日

一般財団法人 日本建築総合試験所

理事長 辻 文 三



記

証明方法：申込者より提出された下記の資料により性能証明を行った。

資料1：RES-P 工法 性能証明のための説明資料

資料2：RES-P 工法 設計・施工基準

資料3：参考資料

資料4：追加資料

資料5：載荷試験データ集

資料6：更新資料

資料1には、本技術の目標性能達成の妥当性を確認した説明資料がまとめられている。

資料2は、本工法の設計・施工基準であり、設計基準、施工基準の他、管理体制などが示されている。

資料3には、沈下量評価のための解析結果、鋼管の耐久性調査結果などが示されている。

資料4には、鋼管の座屈検討結果などが示されており、資料5では、各種の鉛直載荷試験結果などが示されている。

資料6には、施工実績や運用体制の維持状況などが示されている。

証明内容：本技術についての性能証明の内容は、補強地盤の鉛直支持力についてのみを対象としており、以下の通りである。

申込者が提案する「RES-P 工法 設計・施工基準」に従って施工された補強地盤の長期荷重時の鉛直荷重に対する支持能力は、同基準に定めるスウェーデン式サウンディング試験結果に基づく支持力度算定式で評価できる。

また、本技術については、規定された施工管理体制が適切に運用され、工法が適正に使用されている。